

付 録

ジョージ・ミューラーと、その祈りの力の秘訣

神は、人々に理解も実行もされていない真理を教会に教えようとする時には、その真理がもたらす祝福を、ことばと行いによつてあかしする証人をお立てになります。神は、十九世紀の世界に、神が実際に祈りをお聞きくださることの証人として、ジョージ・ミューラーをお立てになりました。ジョージ・ミューラーの生涯と、その祈りの経験については、ごく簡単に触れてみるだけで、これほど効果的に、祈りに関する神のみにことばが例証され、実証されている例が他にないことが分るでしょう。

ミューラーは、一八〇五年九月二十五日プロシヤで生まれました。若いころの彼の生活は荒れていて、それが神学生としてハレ大学に入学した後まで続きました。二十歳の時のある晩、友人に誘われて祈り会に出席、そこで大きな感銘を受け、間もなく救い主を知るようになりました。しばらくして、海外宣教に関する文書を読んだことから、ロンドン・ユダヤ人伝道協会に加わりまし

た。学生会員として受け入れられましたが、協会の規則に服従することはできないと思うようになりました。聖霊の働く余地があまりにも少ないと感じたからです。合意の上で一八三〇年そこを脱会し、ティンマスの小さな教会の牧師になりました。一八三二年、ブリストルに導かれ、ベテスダ教会の牧師として働くかたわら、孤児院や他の働きへ導かれました。この働きの間、神はミューラーを驚くべき方法で導かれました。彼は、神のみにことばを信頼し、神がみことばをどのようになさるかということを経験しました。

ミューラーが自分の霊的生活について述べていることをいくつか紹介しましょう。それは、ミューラーの祈りの経験についてこれから述べることの前置きになるでしょう。

付 録

「このことについて、私は次のように申し上げたいと思います。主は、私の神聖な生活の初めから、霊的なことにおいて、単純な、子供のような性質を与えてくださいました。ですから、私が聖書を全く知らず、外側の罪に負けてしまっていたころでさえも、私は、ほんのわずかなことでさえ、祈りの中で主に申し上げていました。そして、『未来のいのちが約束されている敬虔は、すべてに有益です』という事実を知りました。私は、非常に弱く、無知な者ですが、神の恵みにより、他の人の益になるようなことをしたいと願っています。かつては、サタンの忠実な部下でしたが、今は、キリストのためにたましいを獲得しようとしている者です。」

彼が、神のみにことばの用い方を知り、神がみことばを明らかにするために遣わされた教師とし

て聖霊によりたのむことを学んだのは、ティンマス時代のことです。ミューラーはこう書いています。

「それから神は、神のみことばだけが霊的な事柄を判断する基準であり、それは、聖霊によってのみ説明され得ること、今日も、前の時代と同じように、聖霊が私たちの教師であることを教え始められました。それまでは、聖霊の任務については、経験によって理解をしていなかったのです。」

「このことを理解し始めたことが、私に大きな影響を及ぼしました。主は、私にそれを経験させてくださったのです。私は、注解書や他の書物をわきに置いて、單純に神のみことばを読み、学びました。」

「その結果、祈りと聖書の瞑想に没頭するために部屋に閉じこもった最初の晩の数時間で、それまで数か月かけて学んだ以上のものを学ぶことができました。」

「とりわけ違ったことは、その時、私のたましいに本当の力が与えられたことです。今や私は、聖書に照らして私が学び、また見たことを試し始め、それに耐えたものだけが本当に価値のあるものであることを知りました。」

神のみことばに従うことについて、彼は自分のバプテスマと結びつけて次のように書いています。

「神の豊かな恵みによって自分の心をそのような状態にもって行ったことは、神が喜びになることでしたので、私は、聖書の中に見出されることは、何でも喜んで実行しようと思いました。私は、『神のみことばに従います』と言うことができました。それによって、私は、それが神の教えであるか、分ったと信じています。このことで、ヨハネの福音書七章一七節のみことばが、聖い信仰の多くの教義と教訓についての驚くべき注解となっていることを申し上げたいと思います。たとえば、次のみことばがあります。『しかし、わたしはあなたがたに言います。悪い者に手向かつてはいけません。あなたの右の頬を打つような者には、左の頬も向けなさい。あなたを告訴して下着を取ろうとする者には、上着もやりなさい。あなたに一ミリオン行けと強いるような者とは、いっしょに二ミリオン行きなさい。求める者には与え、借りようとする者は断わらないようにしなさい。』自分の隣人を愛し、自分の敵を憎め。』と言われたのを、あなたがたは聞いています。しかし、わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい』(マタイ五・三九―四四)。『持ち物を売って、施しをしなさい』(ルカ二・三三)。『だれに対しても、何の借りもあってはいけません。ただし、互いに愛し合うことについては別です』(ローマ一三・八)。次のように言う人がいるかもしれません。『これらの聖句は文字通りには受け取れません。もしそうすべきだとしたら、神の民はこの世を渡って行けなくなります。』しかし、ヨハネの福音書七章一七節で教えられた心は、この抗議をむなしものとして退けます。

この主の命令を文字通り行おうと思う者は、文字通りに受け取ることが神のみことであることが分るようになる、私は信じます。そう取る者は、疑いなく困難に会うし、これらのみことばは、肉にとって実行が難しくても、自分たちがこの世では旅人であり、寄留者であること、この世は自分の故郷ではないことを感じさせ、いつそ神に信頼する者とさせます。神は、神のみことばに従おうとして起る困難の中で、私たちを必ず助けてくださるからです。」

ミューラーは、神のみことばに對しこのように絶対的に服従することによって、お金に對しても独特な考えをもって行動するようになりました。これは、ミューラーのその後の生涯に大きな影響を与えるようになります。それは、お金は神の管理下にあり、お金は、すべて神御自身との直接の交わりにおいて与えられるという確信にもとづいていました。このことで、ミューラーは次の四つの原則を採用しました。

一、一定の給料はもらわない。それを集める場合にも、神のみわざが保たれるのにふさわしい自由の献金と食い違ふことがしばしば起きること、受ける場合にも、生きておられる神によりたのむよりも人間にたよる危険があるという理由からである。二、決して人に援助を求めない。必要額がどれほど大きくても、しもべの面倒を見ると約束し、祈りを聞くと約束された神にのみ訴える。三、「持ち物売って、施しをしない」(ルカ一二・三三)という命令を文字通りに受けとめ、貯金をいっさいせず、神が与えてくださったものをすべて貧しい人々のため、神のみわざの

ために使う。四、ローマ人への手紙一三章八節の「だれに對しても、何の借りもあつてはいけません」も文字通りに受けとめ、クレジット買いはしないし、借金もしない。ただ神が満たしてくださることを信じる。

このような生き方は、初めは容易ではありませんでした。しかし、ミューラーは、たましいを神のうちに憩わせ、信仰が後退しそうになる時には、神とのより親密な結びつきを求めていくことが大きな祝福となることを証言しています。

「罪のうちに生きながら、神と交わつて、この世で必要なものを天からいただくこととすることはあり得ないことであり、できないことです。」

ブリストルに住んで間もなく、「聖書知識協会」を設立し、教会学校、海外宣教、聖書事業などを援助する仕事を始めました。この協会から、ジョージ・ミューラーの名を高いものにした孤児院の働きが生まれました。一八三四年、彼の関係する学校で、一人の孤児がキリストに導かれたのに、靈的配慮を施すことのできない貧しい家に引き取られるという事件が起りました。ミューラーはそのことで心を痛めました。そのころ、フランケに会い、ミューラーはこう書いています(一八三五年十一月二十日)。

「きょう、私は、孤児院の建設について考えるだけでなく、それを始めることを堅く決心し、主のみこころを確かめるために祈りました。主よ。明らかにしてください。」

十一月二十五日にはこう書いています。「きのうもきょうも、孤児院のために祈りました。そして、ますます神のみこころであると確信するようになりました。どうか、あわれみによって導いてください。理由は三つあります。一、神が栄光を受けるように。神が喜んで必要を満たしてくださるよう。それによって、神に信頼することがむだでないことが分り、神の子たちの信仰が強められますように。二、父母のない子供たちの霊的福祉。三、彼らの物質的福祉。」

彼は、数か月祈り、神を待ち望んだ後、一軒の家を借り、三十人の子供を収容しました。間もなく、更に三軒の家を借り、総計百二十人を収容するまでになりました。こうして事業は十年間継続されましたが、その間孤児たちの必要は神にのみ求められ、そして与えられました。しばしば、切迫した必要と、多くの祈りを要する時がありましたが、信仰の試練は金よりも尊いことがあかしされ、神への賛美と栄光となりました。主は、しもべたちを大いなるみわざのために備えてくださいます。神の摂理と聖霊によって、彼は神に望み、待ち望んで、三百人の子供たちを収容する家のため、一万五千ポンドの確かな神の約束をいただきました。この最初の孤児院は、一八四九年に開設され、一八五八年には、第二、第三の孤児院が開設され、九百五十人が増員され、費用も三万五千ポンドになりました。一八六九年と一八七〇年に、第四、第五の孤児院ができ、更に八百五十人が増員され、費用も五万ポンドとなり、孤児の数は、総計で二千百人にのぼるまでになりました。

神は、ミューラーのこの働きに加えて、孤児院の建物や孤児の生活費に匹敵するほどの費用をお与えになり、学校、海外宣教、聖書及びトラクトの配布をさせていただきました。すべてが神から与えられ、五十年の間に、英貨百万ポンド以上を主のみわざのために使ったことになりました。自分の年間の三十ポンドの収入をささげて神のみことばと聖霊に従った時、神が、その従順と信仰の報いとしてどれだけのものを用意してくださり、どんな方法でみことばを成就してくださったか、ミューラーはよく知っていました。そのことを私たちは注意深く観察する必要があります。「あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさん物の物を任せよう。」

これらのことはすべて、私たちの模範として起されたのです。神は、ジョージ・ミューラーがキリストに従ったように、私たちも従うように望んでおられます。ミューラーの神は、私たちの神でもあります。同じ約束が私たちにもあります。同じ愛と信仰の奉仕が至る所から私たちを呼んでいます。祈りの学校で学んだ学課とともに、神が、祈りの人としてジョージ・ミューラーに与えられたあの力を学びましょう。ミューラーの生涯を見る時、私たちは、みことばの中で、恵み深い主とともに学んだ学課の驚くべきあかしを学ぶことができるでしょう。特に、主の最初の偉大な学課、すなわち、主が定められた方法で、神のみこころに従って、みことばを通し御霊によって与えられる明確な願いをもって主のみもとに行く時、求めるものは何でも与えられるという学課は、つきり心のうちに印象づけられるでしょう。

祈りと神のみことば

神が私たちの声を聞いてくださるかどうかは、私たちが神の御声に耳を傾げるかどうかにかかっていることについて、すでに学んできました(第二十二、二十三課)。私たちが特別な願いをする時に、それを訴えるための約束があります。しかし、それだけではありません。私たちの全生涯が、みことばの主権に服していなければなりません。すなわち、みことばが私たちのうちに宿っていないければならないのです。この点、ジョージ・ミューラーのあかしは、極めて教訓的です。神のみことばの占めるべき真の位置の発見と、それに伴う御霊の教えが、ミューラーの霊的生活に新時代を開きました。それについて彼はこう書いています。

「聖書的論法とは、次のようなものでしょう。神御自身がへりくだって著者となりました。聖霊がそのしもべたちを使ってお書きになった尊い書物について、私は無知です。この書物には、私を知るべきことと、私を本当の幸福に導いてくれるものが含まれています。ですから、私は、この最も尊い書物の中の書物を、熱心に、祈り深く、瞑想しつつ繰り返し読んで読まなければなりません。これは、私の生涯を通じて実行すべきことです。まだわずかししか読んでいませんが、私は、この書について何も知らないことに気づかれています。しかし私は、自分の無知を自覚して神のみことばをもって学ぼうとする代りに、理解しにくいことと、読んでもおもしろくないという気持から、読もうとしなかったのです(実際には、祈り深くみことばを読むと、知識だけ

ではなく、それを読む喜びも与えられます)。こうして、私のクリスチャン生活の最初の四年間は、多くの信徒の場合と同様に、生ける神のみことばよりも平凡な人々の書物を読むことに費やされました。その結果、知識においても、恵みにおいても、私は幼子のままでした。知識について言えば、真の知識は、御霊によってみことばから引き出されなければなりません。私はみことばをなおざりにしていたので、四年間も全く無知で、聖なる信仰の要点さえもはつきりとは知らないほどでした。悲しいことに、この知識の欠如が、神の道をしっかりと歩くことの妨げとなりました。というのは、一八二九年の八月、主が私を本当にみことばのもとへ連れて行ってくださった時、私の生活と歩みは全く違ってしまったからです。それ以来、自分のあるべき姿から遠ざかることはあっても、神の恵みによって、以前よりもはるかに神に近く生きることができるようになりました。聖書よりも他の書物に興味を持ち、神のみことばよりも人のことばの方がおもしろいと考えている信徒がこれを読めば、私の二の舞はしなくてすむでしょう。神のみことばならば、この書は、それを読んだ人々を通して人々を導き、これ以上聖書をなおざりにできないようにし、これまで人の書いたものに心を向けていた人々をみことばの方に向けるようにしてくれるでしょう。」

「この主題を終える前に、もう一つだけ付け加えておきたいと思います。読者の中に、みことばがよく理解できないという人がいるなら、その人はみことばをたくさん読まなければなりません

ん。御霊は、一つ一つのみことを説明していただきます。みことを読んでおもしろくないと思うなら、そのためにも、たくさん読むようにしなければなりません。みことを、よく読むことこそが、喜びにつながるからです。たくさん読めば読むほど、もっと読みたくなるものです。」

「何よりも、神だけが、御霊によって、私たちに教えることがおできになるのだということと、そのゆえに、みことを読む前に、また読みながら、神に祝福を求めなければならないことを心にしっかりとめておくべきです。」

「更に、聖霊は、最善の、最適の教師には違いありませんが、私たちが望む時、ただちに教えてくださるとは限りません。ですから、ある聖句については何度も繰り返し説明を求めなければならないことがあります。しかし、祈り深く、忍耐強く、神の栄光を目指して光を求め続けていくな、聖霊は必ず教えてくださいます。」

ミューラーの日記を見ると、自分の霊的生活の養いのために、みことを読みながら、二、三時間も祈りに費やすということが記されています。この結果、祈りの力や励ましが必要な時、一つ一つのみことが、単なる「議論の余地のある」ことばとしてではなく、生きたことば、すなわち、神が語りかけてくださる生きたことばとなりました。ミューラーは、生きた信仰を抱いて、みことをもって御父に訴えることができたのです。

祈りと神のみことば

若い信者にとって一番困難な問題は、自分たちの願いが神のみことばにかなったものであるかを、どうやって知るかということです。神は、みことばが直接語っていない事柄を明らかにしようと思っておられること、それによって私たちに對する神のみことばを知らせられること、更に私たちもそれを求めてよいことなどを、ジョージ・ミューラーの経験を通して私たちに教えようとされているのではないのでしょうか。みことばを無視したり、みことばに反したりというものはなく、みことばを越えるものとして、みことばに加えて、御霊の教えは信者の財産となります。御霊の教えなしに神のみことばを知ることはできません。御霊は、みことばによって、みことばのみによって教え、一般的原則や約束を私たちの必要に適用していただきます。日々の歩みに汚れた道であれ、神に近づく信仰の道であれ、みことばをその道の光としてくださるのは御霊であり、御霊のみです。神のみことばがそのしもべに確実に示されるには、いかに子供のような単純さと素直さが必要であるかに注目しましょう。

ミューラーは、最初の孤児院の建設と、それが神のみことばであることの確信について、開設直後の一八五〇年五月に次のように語っています。その時は、大きな、しかも、解決の見通しのない問題がありました。

「しかし、見通しは暗くても、そうなることは当然だと思っています。それがどうなるかにつ

いて、一度でも疑ったことはありません。というのは、私が神のためにこの大きな孤児院を建てるのが神のみこころであることは、初めから確信してきたことであり、建物全体が完成し、孤児院が満員になることも、初めから確信していたことだからです。」

神のみこころが何であるかを見出すミューラーの方法は、二番目の孤児院建設の際、いよいよ明らかになりました。以下の叙述が示唆する教訓を、読者は学んでいただきたいと思っています。

「一八五〇年十二月五日。このような状況のもとでは、主がその優しいあわれみによって、サタンが私に勝つのをお許しにならないように祈るだけです。神の恵みによって、私の心は言います。この問題に取り組むことがみこころであると確信できたら、私は喜んでそういたします。しかし、これがむなし、ばかげた、高慢な考えであり、あなたから出たものではないと分ったら、あなたの恵みによって、私はそれを憎み、全くやめます。」

「私の望みは神にあります。神は私を助け、教えてくださいます。これまでに主がなしてくださいましたことから判断すると、主がこの道でもっと大きな働きをお命じになったとしても、それは奇妙なことでも驚くことでもありません。」

「孤児院の事業を大きくするという考えは、最近入ってきた多額の金にもかかわらず、まだ生れていません。この七週間神を待ち望みましたが、その間、献金がほとんどありませんでした。そして、支出は収入の四倍にもなりました。神が先に多額の金を送ってくださったっていなかったと

したら、私たちは、全く落胆していたことでしょう。」

「主よ。この問題について、あなたのしもべはどのようにしたらあなたのみこころを知ることができるでしょうか。どうか、しもべにお教えください。」

「十二月十一日。先のことを書いて以来、この六日間というものの、来る日も来る日も、私はこの問題について神を待ち望みました。ほとんど一日中、心の中にあったと言ってよいでしょう。夜中に目が覚めると、そのことが頭から離れませんでした。しかし、そうしているうちも動揺はありませんでした。私はそれについて全く平静でした。この奉仕を続けていくことに、私のたましいは喜びを覚えていました。主が私にさせたいと思っていらいっしやることだと確信できたら、たといどのような困難があっても、すべてはうまくいくし、主の御名はあがめられるのです。」

「一方、主が私に現在の範囲の奉仕で満足するように望まれ、また事業を拡大するように祈るべきでないという確信があるなら、神の恵みによって、私は喜んでとりやめます。なぜなら、主が私の心をそのような状態に導いてくださったので、私はこの問題において、ただ主をお喜ばせることだけを望んでいるからです。それだけではありません。私はこの事については、二十年来喜びも悲しみもとにしてきた愛する妻にも話していません。これからも話すつもりはありません。それは、この問題について人と相談せず、静かに主を待ち望みたいからです。外のものによって簡単に影響されることのないようにするためです。この問題に関する私の祈りの重荷は、

私が誤りを犯すことを主がお許しにならず、みこころを行えるように教えてくださることです。」
 「十二月二十六日。先の文を書いてから十五日が過ぎました。神の助けにより、その後もこの問題について一生懸命に祈っています。寝ても覚めても、この問題がいつも頭を離れません。しかし、あせりは全くありません。そのことをだれにも話していません。妻にも話していません。私はじつとこらえて、この問題を神にだけ申し上げています。外からの影響や騒ぎによって、神のみこころを明確に見出すことが妨げられないようにするためです。神が私にはつきりとみこころを示してくださることについては、完全に確信しており、平安があります。今晚も特に厳肅な祈りの時が与えられ、神のみこころを知ろうと努力しました。この問題で私が迷うことを主がお許しにならないようにと主に懇願し、嘆願していながら、心の中で、これがみこころであること、私がこの問題に突き進むべきことについて少しも疑ったことはありません。しかし、このことは、これまででない重大な決定なのでいくら注意しても、祈っても、熟慮しても、し過ぎることはないと思っています。私は決して急ぎません。みこころなら、この問題の第一歩を踏み出すまで、だれにもそのことを話さないで、神の恵みによって、何年でも待つことができます。一方、明日でも行動を起せと言われるなら、喜んでそうします。この心の平静さ、この問題についての無心さ、天の父を喜ばせようとするこのひたすらな思い、自分の名誉ではなく、神の栄誉だけを求めようとするこの思い——この心の状態こそが、私の心が肉のあせりに左右されず、この態度

を持ち続けていけば、神のみこころを完全に知ることができるという確信をもたらしてくれるものなのです。しかし、こう書きながらも、同時に次のことを書き加えないわけにはいきません。すなわち、もっとも主と主に用いられる名誉と輝かしい特権にあずかせていただくことを切に求めたいのです。」

「私は、三百人の孤児より、千人の孤児に聖書を教えたいと思います。三百人の孤児よりは、千人の孤児に聖書を説き明かしてやりたいと思います。神が依然として、祈りを聞き、答えてくださる方であり、かつてそうであったように、今も、これからも生ける神であり、祈りに答えて更に七百人の孤児たちの家と、彼らを養う手段を提供してくださる方であることが、もっと豊かに現されることを求めたいのです。この最後の点が私の考えの中では最も重要です。この問題全体の中で、主の名誉こそ主要な点です。ですから、この事業の発展によって主の栄光が現されないとしたら、もう一つの孤児院という私の考えをあきらめても、神の恵みによって、私は完全に満足できます。聖霊によって与えられたこのような心の状態がある時に、天の父であるあなたは、あなたの子たちが誤ったり、欺かれたりするのをお許しになるはすがありません。神の助けにより、主が行動せよとおっしゃるその時まで、私は毎日このことを祈り続けていきます。」

「一八五一年一月二日。一週間前に先の文を書きました。この一週間、毎日助けられ、一日に何度も何度も、もう一つの孤児院のために主の導きを求めてきました。私は、神が大いなるあわ

れみによって、私に誤りを犯させないようにしてくださるようと切に祈っています。先週は、箴言を読んでいましたが、当面している課題とかかわりのある次のみことばによって心がもう一度新しくされました。『心を尽くして主に抛り頼め。自分の悟りにたよるな。あなたの行く所どこにおいても、主を認めよ。そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる』(箴言三・五、六。神の恵みによって、私はどこにおいても(特にこの問題において)主を認めています。ですから、私の奉仕のこの分においても、それにどうかかわるかも含めて、主は私を導いてくださると確信し、心を安んじています。更に、『直ぐな人の誠実は、その人を導く』(箴言一一・三)とあります。神の恵みによって、私はこの事業において、やましいところは一つもありません。私の率直な目的は神の栄光です。ですから、私は正しく導かれると期待できるのです。更に、『あなたのしようとすることを主にゆだねよ。そうすれば、あなたの計画はゆるがない』(箴言一六・三)。私は、自分の計画を主にゆだねています。ですから、自分の計画がゆるがないことを期待できるので、私の心はますます平静になり、神が私を孤児院の働きにいいよ用いてくださることを確信するようになっていきます。主よ。どうか、しもべをお用いください。」

彼は、この後、更に二つの建物を建てようとした時、次のように書きました。

「先の文を書いてから十二日たちました。孤児院の働きを拡大することについて、毎日主を待ち望んでいます。この期間もずっと完全に平安でしたが、それはただ、神の栄誉と、同胞の物質

的、靈的利益を求めてきた結果です。そうすることが神のみことである確信できないなら、この問題全体に対する考えも、苦もなく放棄することが出来ます。一方、主が望まれるなら、ただちに実行するつもりです。私は依然として、この問題についてだれにも話していません。毎日、多少でもこのことを考えるようになり、祈るようになってからすでに七週間たちますが、だれもまだそのことを知りません。妻にも話していません。静かに祈ることによって、この問題についての人の意見に動かされることを避けるためです。今晩は、この問題で私が誤りを犯さないように、また悪魔に欺かれることがないように、特に祈りました。もう一つ孤児院を建設することと反対する理由と賛成する理由を、心に浮ぶままに、明確に書き出してみました……。」

「九つの理由が考えられましたが、もう一つの理由がなければ、決断を下すことができなかったでしょう。その理由は次のことです。数か月この問題を熟慮し、その意味や困難を考慮し、よく祈った上で、この拡張計画を決断した時、私の心に平安があるということです。欺かれないうちに、間違いを犯さないように何度も父に求めた子が、この決断にあたって、平安でいます。全くの平安でいます。そして、何週間も何か月も祈って導かれた決心は、聖霊の導きであると確信できます。主を信頼しているので、迷うことはない確信して前進しようと思います。完全な答が与えられるまでは、多大の困難があり、多くの祈りが神にささげられ、信仰と忍耐が要求されるかもしれませんが。主に信頼する主のしもべは惑わされないということが、最後には分るでしょ

う。」

祈りと神の栄光

神のみこころに従わずにあることを求め、それが答えられない理由を見出そうとする時、聖書は普通、自分のうちに原因を見出すように警告をします。すなわち、正しい状態にあるか、正しい心で求めているかを見出すように警告するのです。神のみこころにかなうものであっても、求め方、求める気持が正しくなければ聞かれません。すべての罪の大きな根が自我であり、自己中心であるので、自分の楽しみや名誉のために祈ることほど神の答を妨げる靈的願望はありません。力と勝利を求める祈りは、神の栄光を求めるものでなければなりません。このことは、自分が神の栄光のために生きることによって、初めてできることです。

ジョージ・ミューラーの生涯に、神の聖霊が、一連の祈りの初めから、自由に、また組織的に神に栄光を帰すことを、第一の、また唯一の目的にするように導いてくださったっている驚くべき実例を見ます。ミューラーの言っていることをよく考え、神がミューラーを通して教えようとされていることを学びましょう。

「今日、神の子が特に必要としていることの一つは、信仰が強められることです。このことを証明することがいくらでもあります。私が目に見える証拠として兄弟たちに示したいことは、私

たちの父なる神は、神を信頼する者に対しては、以前と同じように、私たちの時代においても生ける神であり、忠実であられることです。」

「神に信頼する者を、神が喜んで助けてくださること、また助けることがおできになることを、神のみことばの例だけではなく、神が今日も同じお方であることを示す証拠をあげて、人々の信仰を強めるための器となりたい気持が私にあります。神のみことばだけで十分であることは分っているし、恵みによって、私にはそれで十分ですが、兄弟たちに手を貸すことができればと考えています。」

「ですから、私があわれみを受けたある点において、キリストの教会のしもべとなる義務があると考えています。その点とは、神のみことばをそのまま受けとめ、その通りに信頼することです。事業の最初の目的として今も変っていないのは、私たちが世話をする孤児たちは、その必要を人に訴えることなく、ただ祈りと信仰によって満たされることによって、神が栄光をお受けになることでした。そうすることによって、神が今も忠実な方であり、祈りを聞かれる方であることが分るからです。」

「最近私は、また孤児院のためによく祈り、しばしば自分の心を点検しています。それは自分自身を喜ばせるために孤児院を建てたいと思っているなら、それをはっきりさせなければならぬからです。主の栄光だけを求めているのであれば、主のみこころでないことについて兄弟たち

に指摘されることを喜ぶはずです。」

「一八三五年に孤児院の仕事が始めた時、私のおもな目的は神の栄光であり、ただ信仰と祈りという手段によってどのようなことが成し遂げられるかを實際に示し、それによって教会に益をもたらし、関心のない世には、この働きによって、生きておられる神が、四千年前の生きておられる神であることを示し、神の實在を明らかにすることでした。この私の目的は、十分に成し遂げられました。予想したように、多くの罪人が回心し、世界中の多くの神の子たちがこの働きによって益を受けました。更に、働きが大きくなればなるほど、私が期待した通り、祝福も大きくなりました。何十万もの人々がこの事業に注目するようになりました。何万もの人々が見学にやってきました。このことによって、私はますますこの働きを前進させ、主の御名に更に大きな栄光をもたらしたいと思うようになりました。主が見上げられ、あがめられ、ほめたたえられ、信頼され、いつでも頼られること、これがこの奉仕の目的であります。特に、これが拡張してきた目的です。それはただ、神を信頼するだけのあわれな一人の男が、祈りによってどのようなことを成し遂げることができるかが分るためです。それによって、神の他の子たちが神に信頼して神のみわぎを成し遂げるようになり、また、神の子たちがそれぞれの立場や状況の中で、いよいよ神に信頼していくようになります。私が事業を拡張したのはこのためです。」

祈りと神への信頼

ミューラーのことばには、他にも喜んで引用したいものがいくつかありますが、あと一つだけで十分でしょう。それは、忍耐強い祈りの秘訣は、神のみことばに対する確固たる信頼であるということです。みことばのうちにお働きになる御霊の教えに従って神の約束を握り、御父が私たちの祈りを聞いてくださったと信じるなら、答が遅れたり、好ましい状況にならないからと言って、自分の信仰を動揺させてはならないということです。

「日常の祈りに対する完全な答は、実現にはほど遠いものがありました。しかし、神による豊かな励ましがあり、私は祈り続けることができました。たとい、実現にはほど遠く、結論を出さなければならぬ時が来たとしても、私はみことばの土台に立ち、多くの祈りと自己検証をなし、この問題について信仰と忍耐を働かせて、ゆるがずに進むべきでした。このように、神の子たちはすべて、自分たちが神のみもとに持ち出したものが神のみこころにかなっていると確信したら、祝福が与えられるまで信じ続け、期待し続け、祈り続けるべきです。私自身もある祝福について神を待ち望んでいます。あることのために、十年六か月、一日も休まずに神を求め続けてきました。ある人々の回心についてはまだ答を得ていません。しかし一方では、その間に、何千もの祈りの答を与えられています。また、ある人々の回心のために、十年、六年、二、三年と、一日も休まずに祈ってきましたが、その答はまだ与えられていません。しかし一方では、その間、何

千もの祈りが答えられ、祈ってきた人々が回心しています。このことを特に強調するのは、私が祈ればすぐに答が与えられ、どんなことを祈ってもただちに答が返ってくると思っている人がいるからです。神のみどころにかなう祈りにのみ答を期待できます。しかし、その場合ですら、先に述べたように、何年もの信仰と忍耐を要する例があるのです。私は、毎日祈り続け、答を待っています。答を確かに待っているのです、十九年間も信仰と忍耐を実践しています。そして、必ず答えてくださることを思つて神に感謝しています。クリスチャンの皆さん。あなたが求めていることが神の栄光のためであると確信しているのなら、勇気を出し、新しい気持ちになつて祈りに身をささげなさい。」

「最も注目しなければならない点は次のことです。私の覚えている限りでは、新しい孤児院を準備し、運営するすべての必要は、スコットランドからの六ポンド・六シリング・六ペンスで備えられました。私は、六年八か月、来る日も来る日も、たいてい一日に七回は、この孤児院拡張のための費用を与えてくださるように主に求めてきました。一八六一年の春の計算では五万ポンドでしたが、後になつて五万八千ポンドになることが分りました。今、私はその全額を手に入れています。主はこの拡張計画を私の心に入れてくださり、それに対する勇気と信仰を与えてくださり、来る日も来る日もゆるぐことのないように信仰をささえてくださいました。このことのゆえに、私は主を賛美し、主をあがめます。最後の全額を手にした時の確信は、まだ一ポンドも与え

られていない時の確信と同じでした。私は、主のみどころを確信すると、初めから非常な忍耐を持ち続け、また心を試されるように神を待ち望みました。そして、数百人の孤児でいっぱいになった孤児院が目の前に二つあるように見て、確信を抱き続けてきました。若い信者の方に、この主題のことで、注意を申し上げたいと思います。一、主の奉仕でも、仕事でも、家族のことも、新しい歩みはゆっくり踏み出すようにしなさい。すべてを熟慮し、聖霊の光と神を恐れる恐れの中で考えなさい。二、自分が進もうとする道について神のみどころを確信したいと思つたら、自分のしたいことをしようとするのをやめなさい。神が喜んで教えてくださる時、正直に『神のみどころを行います』と言うためです。三、しかし、神のみどころが分つたら、神の助けを求めなさい。熱心に、執拗に、忍耐強く、信仰をもつて、期待をもつて求めなさい。神の時が来れば、あなたは、神の思いのままにそれを手にするでしょう。」

「お金の問題だけがむずかしいことだと考えるなら、それは間違っています。他にも必要なことや困難なことがたくさんあります。困難なこととも必要なこともない日は、あったとしてもまれです。むしろ、一日のうちに多くの困難と必要が同時に起る方が多いでしょう。そのための世界一の特効薬は、祈りと信仰です。迷いはなくなります。忍耐強く、執拗で、信仰のある祈りは、主イエスの御名によつて神にささげられるなら、遅かれ早かれ、祝福を与えられます。本当によいことのため、神の栄光のために求めるなら、神の恵みによつてそれは間違いなく与えられます。」